



70年のあゆみ



JA 綱領

—わたしたちJAのめざすもの—

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。

そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

- 一、地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 一、環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 一、JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 一、自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
- 一、協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

目次

●中央会設立50年から70年のあゆみ	3
●データで見る50年から70年のあゆみ	15
●会員一覧	16
●常勤役員	17
●非常勤役員・機構図	18

はじめに

北海道農業協同組合中央会は、農業協同組合組織の指導、監査、教育及び代表機関として昭和29年8月13日に設立され、令和6年度をもって創立70年を迎えることができました。これもひとえに、長年にわたり本会の活動をご支援賜りました組合員・会員の皆様をはじめ、関係機関・関係団体の皆様、歴代役職員のご厚情・ご尽力の賜であり、改めてこれまで積み重ねてきた協同組合運動の重みを実感し、感謝の意を表するところでもあります。

50年史発刊以降の情勢を顧みますと、生産資材価格高騰、TPP等国際貿易交渉、農協改革、台風や地震をはじめとする自然災害等様々ありました。近年ではコロナ禍、国際紛争によって世界の食料需給事情が一変し、各国では輸出制限を行うなど自国の食料を確保する動きが活発化し、世界的な人口増加なども相まって食料争奪合戦が始まっております。我が国の食料をどのようにして安定的に確保していくのか、今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっています。

JAグループ北海道は、持続可能な北海道農業の確立に向け、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大に引き続き取り組むことが重要であります。国民の命の源である食を守り続けるためにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいかなければなりません。

本会といたしましても、組合員の営農と生活の向上・発展をめざして系統農協運動の先頭に立ち、JAグループ北海道の結集軸となる組織に相応しいリーダーシップの発揮を通じて、「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」の実現に向けて取り組んでまいります。

なお、30年史と50年史において、昭和29年創立からの年表を整理しておりますので、この70年史では平成17年（2005年）以降の年表をまとめております。本史がこれまでの歴史を振り返るとともに次代に向けて想いを馳せる契機となれば幸いに存じます。

本史の発刊を機に、改めて協同の理念、協同組合運動の重要性を再確認し、役職員一丸となって協同の成果の最大化を追求していくことをお誓い申し上げますとともに、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶いたします。

令和7年6月
北海道農業協同組合中央会
代表理事会長 樽井 功